



つなぐ、支える、若桜の力！

災害ボランティアセンター運営研修会を開催



11月20日（木）、鳥取県社会福祉協議会と若桜町の協力のもと「災害ボランティアセンター運営研修会」を開催し、28人が参加しました。

災害ボランティアセンターは、大規模災害時に、被災者の「困りごと（ニーズ）」と、支援したい「ボランティア」を繋ぎ（マッチング）、円滑な支援活動を推進するための拠点です。

この研修は、若桜町ボランティアセンター推進協議会の委員が被災地支援に携わった際、「若桜町で災害が起きた際も、即座に対応できる体制が必要だ」と実感されたことから、企画しました。

研修は、鳥取県災害福祉支援センター（県社協）職員による講義の後、「**記録的な大雪で町内に積雪被害が発生し、ドリーミーに災害ボランティアセンターを設置した**」という想定で模擬訓練を実施しました。町内のボランティア団体や民生委員等が参加され、ボランティアを受け付ける「受付班」や、道具を管理する「資材班」などの役割に分かれて、実際の動きを確認しました。参加者は訓練を通じて、有事の際に円滑な運営を行うための改善点等、多くの気づきを得ていました。



受付班：ボランティアを受付

マッチング班：ニーズとボランティアをつなぐ



資材班：活動に必要な資材を管理

訓練で見た今後の課題

■ 受付班 ■

「ボランティアを待たせすぎではないか」、「記入項目が多い」などの課題が挙がり、受付窓口の増設や、誰でも動けるマニュアル（手順書）の作成の必要性を再認識しました。

■ 資材班 ■

「スコープの種類が多いため一覧表があると分かりやすい」といった声や、「事前に集落と協定を結び、資材を借りられる体制を整えてはどうか」といった具体的な提案も出されました。



振り返りでは、実際に動いたからこそ気づく改善点や課題など、具体的な意見が数多く出されました。

今回の訓練で得た気づきを活かし、今後も災害に備えた体制づくりと研修を続けていきます。



若桜町赤十字奉仕団

チャリティーバザー（10月25日）の収益金で下記の事業を行いました



元気な顔を拝見し
安心しました♪



12月7日（日）に、84歳以上の独居世帯を対象に歳末訪問を行いました。対象者75人のお宅を訪問し、枕パットと団員が手作りしたお弁当をお届けしました。



（左から）鹿田施設長、伊井野委員長

12月23日（火）には、わかさ・あすなろに「トントン紙相撲」と「さけべ！トントンボイス相撲」（3万円分）を寄贈しました。

指先で動かす昔ながらの紙相撲と、声で操作する新感覚のボイス相撲は、楽しく遊びながらリハビリにもなります。

ボランティア団体「すずらの会」協力のもと サロンふれあいの里を開催しました

このサロンは、赤い羽根共同募金の配分金を受けています



踊りを披露する
すずらの会のみなさん



若桜学園1年生が1人ずつ自己紹介



参加者と一緒に
若桜音頭を踊りました

お一人暮らしの高齢者を招いて「サロンふれあいの里」（主催：若桜町社会福祉協議会）を11月17日、若桜町公民館で開催し、36名が参加されました。

すずらの会、食生活改善推進員、若桜学園の協力のもと、若桜学園1年生の歌の発表、児童とゲーム遊び、すずらの会の踊り等、盛りだくさんの楽しい会になりました。

若桜町ボランティアセンター（若桜町社会福祉協議会）
TEL 0858-82-0254 FAX 0858-82-1204